



75th
HIROSHIMA
1945

広島トヨタ・復興の記録

ヒロセキタマチ物語

被爆75周年記念図録



夢をかけた男たち

四輪乗用車づくりに

被爆地ヒロシマの

ヒロセキタマチ1号



広島トヨタ自動車株式会社

広島県広島市広瀬北町



2009年に社内用に作成したポスター。
前年のリーマンショックから
立ち上がろうと作成したもの

私たちは広島トヨタです。

幾多の波を乗り越えて73年。
そばにはいつも仲間がいた。

原爆で廃墟となった広島のみち。
食べるものも着るものさえ満足に
なかったこの時代に、トラックの
部品をかき集めて乗用車をつくだ
った男たちがいた。まだマイカーと
いう言葉すらなかった時代。
「ワシらの手で広島初の乗用車をつ
くろうや」と、男たちは広瀬北町の工場
で夜遅くまで突貫作業を続けた。
そして1948年(昭和23年)、念願
だった広島トヨタ初の4輪乗用車
“ヒロセキタマチ1号”(仮称)が
完成した。嬉しくて嬉しくて、
みんなで記念写真を撮った。
復興途中の広島のみちに少し活気
が甦ってきた。
その頃、まだ地面は土だった。
(以上、ポスターより)



昭和24年(1949)広島市広瀬北町の広島トヨタ本社サービス工場前で。

広島トヨタ・復興の記録

ヒロセキタマチ物語

目次

- 1 思い出の町からこんにちは
- 3 ヒロセキタマチ1号
証言その1 被爆地ヒロシマの四輪乗用車づくり
に夢をかけた男たち
- 4 ヒロセキタマチ2号
証言その2 広瀬北町の片隅で手板金で
造りあげた世界で一台の乗用車
- 5 ヒロセキタマチ3号
証言その3 完成したクルマの前でみんな
写真を撮った。とても嬉しかった
- 6 証言その4 名古屋の刈谷工場から
トラックのシャーシを陸送していた時代
- 7 ヒロセキタマチ4号
証言その5 トラックの荷台に上がった男たち
- 9 広島にTOYOTAあり、
広瀬北町本社の看板前で
- 10 昭和20〜30年代ひろしま思い出マップ
- 12 まずはトラックだった
- 14 ピックアップの時代
- 16 特装车いろいろ
- 18 広島トヨタ84年の歩み
- 20 被爆75年に寄せて(社長あいさつ)
- 21 編集を終えて

はじめに
思い出す町からこんにちは

75年は草木も生えぬと言われた広島。今年には被爆75年の節目を迎えました。原爆で社屋を焼かれた当社は翌年の昭和21年(1946)に現在の広島北町で営業を再開。ただ当時はGHQに乗用車の生産を制限されていたため、日本に乗用車と呼べるものが無かった時代。中古トラックの部品をかき集め、手づくりで四輪乗用車をつくれた広島トヨタのプロジェクトチームがいました。当社の協力会社とその頃のクルマづくりを記録した1冊のアルバムが残っていました。この小冊子は昭和20年代の白黒写真をもとに構成した復興の記録です。(ヒロセキタマチ物語・編集室)



(写真上)
昭和33年(1958)に開催された広島復興大博覧会の特装車も手掛けた。平和公園をメイン会場に、大小さまざまな展示館が開設された。

(写真中)
昭和28年(1953)頃。まだ整備中だった平和公園。広島市へ特装車3台を納車。右端に原爆ドームとまだ公園内に残っていた原爆スラムが見える。

(写真下)
左ページのヒロセキタマチ1号を後方から見たところ。サイドのモールが美しい。リヤ部分はビツクアップになっている。

ヒロセキタマチ1号



■記憶の解凍(白黒写真のカラー化)

表紙のヒロセキタマチ1号の写真をカラーで復元したもの。

証言その①

被爆地ヒロシマの
四輪乗用車づくりに
夢をかけた男たち

原爆で焼け野原になった広島
の町で中古トラックのシャーシや
部品を集めて作られた試作車。
ヒロセキタマチ1号は被爆後間も
ない広島北町にある広島トヨタ
本社の整備工場で誕生しまし
た。また乗用車という言葉すら
なかった時代。職人たちは手板
金で鉄板を叩き加工し、完成さ
せた初めての四輪乗用車でした。
この写真は出来上がった試作
車の前で撮影した貴重な記念写
真。職人たちの誇らしい眼差しに
クルマづくりに夢をかけた先人た
ちの心意気を感じます。

この写真は昭和23年(1948)
の冬。ちょうどこの年は広島ト
ヨタ販売から広島トヨタ自動車に
社名が変わった年。正門の新しい
表札と一緒に撮影されたものと
思われます。



昭和21(1946)年、広島北町に社屋を移転した頃。

被爆から三年目の冬
広島北町本社前
後方に見える高い山は
己斐の茶臼山
山のカタチは70年以上
経っても変わらない
運転席の窓から顔を
出している幼児の隣りが
中川太芽雄(ためお)さん

ヒロセキタマチ2号



珍しい観音開きのドア
黒塗りのワゴンタイプ
ヒロセキタマチ1号の
すぐ後に作成されたもの
前列、しゃがんでいるのが
若き日の中川太芽雄さん
左端が父、輝義さん
広瀬北町のサービス工場前で
昭和23年頃

ヒロセキタマチ3号



2号と同じS Bトラックを
ベース車にしたロングワゴン車
運転席にるのが中川さん
その真下のドアの前に
座っているのが父親、輝義さん
広瀬北町のサービス工場前で
昭和24年頃



アルバムを保管していた中川太芽雄(ためお)さん。
あの頃の思い出を聞かせて頂いた。

証言その②
広瀬北町の片隅で
手板金で造りあげた
世界で一台の乗用車

当社広島トヨタは昭和11年(1936)千田町で創業。原爆で社屋を焼失し、現在の広瀬北町に移転しました。翌昭和22年、整備工場の一角に広島トヨタのパートナーとして車体加工会社である中川ボディさんが参入されました。復興途中の物資の少ない広島のみちでここまでのクルマづくりが出来たのも彼らのの素晴らしい技術力・職人仕事の賜物といえます。今回の一連の写真アルバムはこの中川ボディさん(86歳)が大切に保管されていたもの。あの頃はまだ子どもじやつたけ、よう覚えとらんのじやが。クルマが出来てみんなで記念写真を撮ったのは覚えております。仲間に入れてもろうて。そりや嬉しかったです」と中川さん。

昭和21(1946)年、千田町から広瀬北町に社屋を移転した頃。

証言その③
完成したクルマの前で
みんなで写真を撮った
とても嬉しかった

ヒロセキタマチ2号、3号の記念写真に写っている学生帽の少年が若き日の中川太芽雄さん。今回ご本人にお話を聞くことができ、被爆から立ち上がり復興途中のヒロシマを支えてきた広島トヨタの四輪乗用車づくりの新たな姿勢が見えてきました。ヒロセキタマチ1号だけではなく、2号、3号、4号と次々に新しい乗用車づくりに挑戦していく先人たちの素晴らしい心意気に圧倒されました。中川さんの父は昭和21年に復員し、縁あって広瀬北町の整備工場で車体加工会社を再開。「広島トヨタさんと一緒に仕事が出来て親父は嬉しかったんじやと思います。みんなピカにやられた広島町の町を元気にしたかったんでしょうね」と往時を偲ばれました。



ヒロセキタマチ3号の側面からみたところ。昭和24年ごろか?広瀬北町の整備工場前で撮影したもの。



このアングルから見るととても上品で美しい白いセダン。とてもトラックシャーシから作った手作りの乗用車とは思えない。

ヒロセキタマチ4号

右ページのSBトラックシャーシにボディを架装し、仕上げたものがこのヒロセキタマチ4号です。今までの黒塗りではなく、白いセダンタイプがモダンで美しい。リヤ部分はヒロセキタマチ1号と同じピックアップスタイルになっています。昭和24年夏、広瀬北町本社にて。



昭和24年(1949)の夏。完成したヒロセキタマチ4号と一緒に記念写真に収まる開発チーム。自信みなぎる男たちの熱いまなざしが心に響く。



ダッシュボードも素敵だ。物資の少ないこの時代にこの内装。デザイン性も高くかなりの技術だ。



少しでも荷物が積めるようにとこの時代はピックアップが主流。



真ヨコから見た4号。流れるフォルム。モダンで洗練されたスタイル。



広瀬北町サービス工場前で写真右がBM大型トラック、左がSB小型トラックのシャーシ。よく見るとシャーシの上に8人の男たちがいる。工場壁面のトヨタマークはサービス工場のシンボルマークだと分かった。昭和24年(1949)頃。



昭和21年頃。完成した当時の広瀬北町のサービス工場。戦後は中古トラックの再生が中心だった。現在もこの建物は残っている。

昭和24年(1949)頃になると小型トラックの生産も開始され、名古屋にあるトヨタ自動車車の刈谷工場から新品のトラックシャーシを陸送してボディを架装していました。運転席は木製の椅子を取り付けただけの剥き出しの姿で広島まで運んでいたようです。あの頃は今と違って東名とか高速道路もなかったもので、そりゃもう大変でした。道路もまだ舗装されていないところが多く、凸凹道を走って広島まで長い道のりだったと思いますよ」と中川さん。この写真は陸送したトラックシャーシと4トトラックと一緒に広瀬北町の工場前で撮影した記念写真。これから始まるクルマづくりに期待を寄せているのか、職人たちの自信にあふれる顔が誇らしく感じます。まだ、日本で乗用車づくりがはじまる少し前の貴重な写真です。

証言その④
名古屋の刈谷工場からトラックのシャーシを陸送していた時代



昭和26年頃、広瀬北町のサービス工場内であったトラックシャーシの展示会。写真は26年発売のFZ型トラック。

昭和24年10月にGHQの乗用車の生産制限が全面解除された。これは同年11月に発売されたトヨペットSD型乗用車。フェンダーにTOYOPETのアルファベットが素敵だ。



広島にTOYOTAあり、
広瀬北町の本社看板前で。



昭和26年(1951)発売のトヨタSF型乗用車と広瀬北町本社正門前で。まだ初代クラウン誕生前。



昭和24年11月頃。発売間もないSD型小型乗用車の前で。記念写真におさまる広島トヨタ社員とその家族。広瀬北町本社前で。



昭和24年夏、トヨタBM型トラックの荷台に上がる男たち。実はこの年の7月に開催される平和都市建設法の住民投票を呼び掛ける啓発運動にこのトラックが使われた。荷台下で立っているのが中川さんの父、輝義さん。

(広島市公文書館・ひろしま50年展パンフより)



昭和24年投票日を呼び掛けるトラックの列。なんとトヨタのBM型トラックだった。荷台の上にはメガホンを持った男たち。

証言その⑤
トラックの荷台に上がった男たち

アルバムの中で最後までどうしても分らなかったのがこの1枚でした。なぜトラックの荷台に男たちは上がったのか？なぜ荷台に上がった写真を撮ったのか？それもこんなにとくさん。荷台後方には5人の男が座っているのです。みんな真剣な顔をして。アルバムの持ち主の中川さんに聞いても当時は子どもだったので分からないとのこと。そんな中、広島市の被爆50年史を調べていてトヨタ製トラック写真を発見。なんとこのトラックは昭和24(1949)年、広島市の平和記念都市建設法制定の住民投票を市民に呼び掛けるための啓発運動に利用されたものだったのです。この法より被爆地広島が復興から立ち上がり平和都市として再建することになりました。

特別企画

あんなこと、こんなこと
昭和20～30年代

ひろしま想い出マップ

百メートル道路にお椀をひっくり返した
ようなカタチをした面白い橋が出来た。
紙屋町のバスセンターの2階から海が見えた。
元宇品の海水浴場に水族館ができた。
楽々園はこどもの国と呼ばれていた。



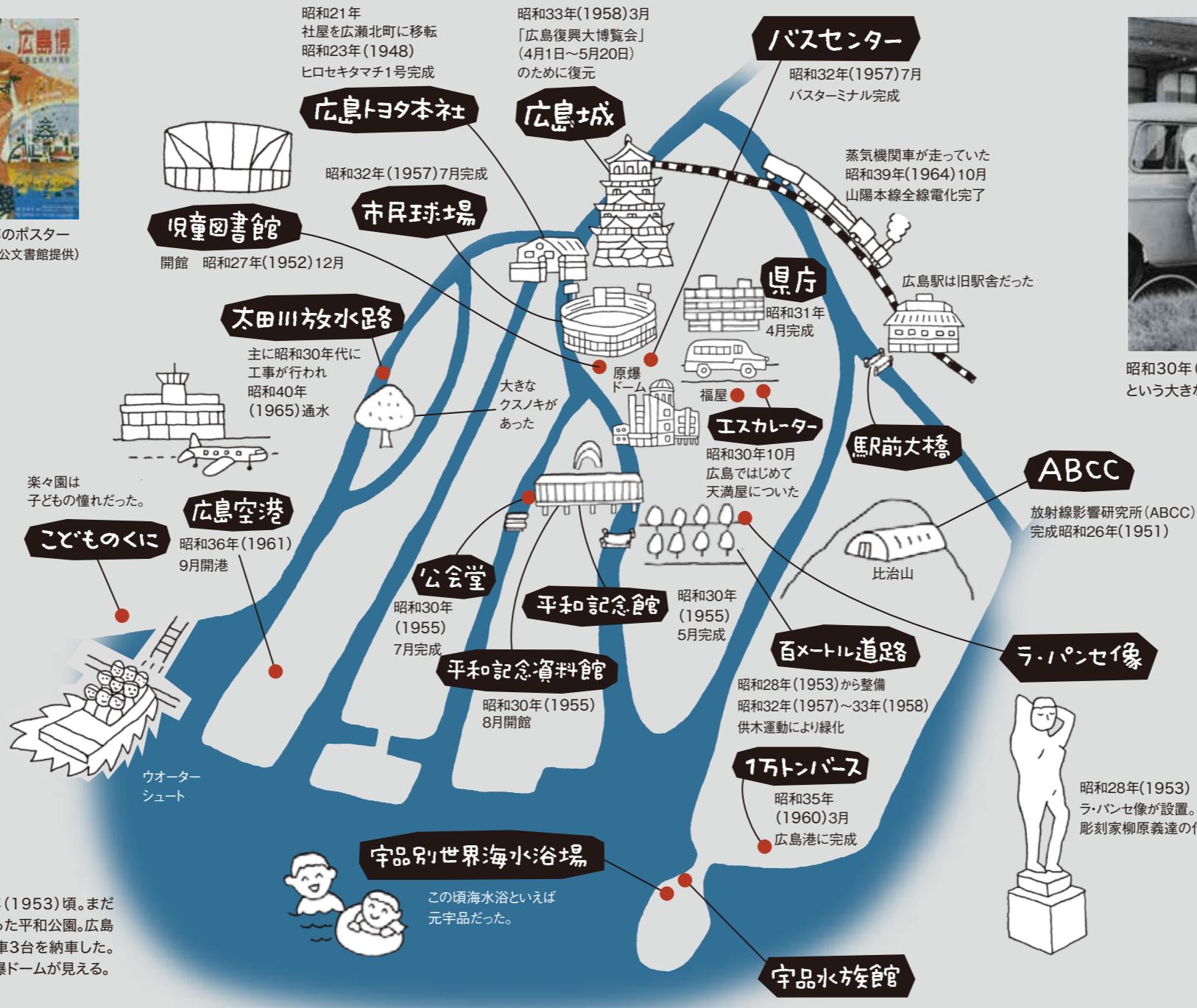
昭和30年(1955)平和公園に公会堂
という大きなホールが出来た。



昭和28年(1953)比治山
に放射能研究所ABCC
が出来た。かまぼこ型の
建物が珍しかった。



昭和28年(1953)頃。まだ
整備中だった百メートル道路。
ラバンセ像が設置されたアメ
リカ文化センターの前で。(現
在のクリスタルビル前辺り)



広島博のポスター
(広島市公文書館提供)

昭和33年(1958)、広島復興大博覧会が開催された。被爆から13年、広島市の人口も戦前の41万人に回復。一つの節目でもあった。平和公園をメイン会場に広島城や百メートル道路などで大小さまざまな展示館が開設された。広島博の宣伝カー(特装車)も大活躍。広島市役所前でミス復興博たち。(広島市公文書館提供)



昭和33年(1958)、
広島博を機に復元
された広島城天守
閣。廃墟から立ち上
がった広島が目覚ま
しい復興ぶりを内外
に深く印象づけた。

(大下隆雄撮影、広島市公文書館提供)



昭和28年(1953)頃。まだ
整備中だった平和公園。広島
市へ特装車3台を納車した。
右端に原爆ドームが見える。

昭和21年
社屋を広瀬北町に移転
昭和23年(1948)
ヒロセキタマチ1号完成

広島トヨタ本社
昭和32年(1957)7月完成

昭和33年(1958)3月
「広島復興大博覧会」
(4月1日～5月20日)
のために復元

バスセンター
昭和32年(1957)7月
バスターミナル完成

蒸気機関車が走っていた
昭和39年(1964)10月
山陽本線全線電化完了

広島駅は旧駅舎だった

県庁
昭和31年
4月完成

福屋

エスカレーター
昭和30年10月
広島ではじめて
天満屋についた

馬前大橋

ABCC
放射線影響研究所(ABCC)
完成昭和26年(1951)

比治山

ラバンセ像
昭和28年(1953)
ラバンセ像が設置。
彫刻家柳原義達の作品

百メートル道路
昭和28年(1953)から整備
昭和32年(1957)～33年(1958)
供木運動により緑化

1万トンバス
昭和35年
(1960)3月
広島港に完成

宇品別世界海水浴場
この頃海水浴といえば
元宇品だった。

宇品水族館

公会堂
昭和30年
(1955)
7月完成

平和記念館
昭和30年
(1955)
5月完成

平和記念資料館
昭和30年(1955)
8月開館

広島空港
昭和36年(1961)
9月開港

こどものくに
楽々園は
子どもの憧れだった。

ウオーター
シュート

大田川放水水路
主に昭和30年代に
工事が行われ
昭和40年
(1965)通水

原爆ドーム

大きなクスノキが
あった

児童図書館
開館 昭和27年(1952)12月

市民球場

広島城

児童図書館

まずはトラックだった



天満屋仕様のBXトラック。荷台あおりを高くしてありいろんな種類の荷物を運べるようになっていた。昭和27年(1952)頃。



昭和27年頃。草津にある海産物加工会社(株)ヒロスイのBXトラック。荷台あおりにロゴが入り、納車前に記録として撮影しているところ。



昭和26年。灘の萬歳酒造の富貴のロゴが入ったBXトラック。広島市の酒販店の発注か。観音町の車体加工工場の前で。

昭和26～28年(1951～53)に発売されたトヨタBX型トラック。全長6.61m。水冷直列6気筒OHVエンジン。排気量3386cc。4トントラックはたくさんの荷物を運ぶ商工業者には欠かせないトラックだった。



昭和27年頃。トヨタBXトラックと広島市観音町にあったトヨタ車体工場前で。



のS型エンジンを搭載した小型トラックは「トヨペット」の愛称でよばれました。シャーシとボンネット部まではトヨタ本社で作成され、運転席や荷台はトヨタ車体で作成されるというものでした。広島においてもトヨタ車専属の架装板金業者によっていろんなトラックが作られていきました。

戦後、昭和20年代の日本にとつてまず、必要な自動車は荷物を運ぶためのトラックでした。とくに道路もまだ整備されていない被災地ヒロシマにおいて、人々の身近なトランスポーターとしてのトラックには大きな期待が寄せられました。ただ終戦後はGHQ(連合軍総司令部)により乗用車の生産が一時禁止されていました。そんな中で昭和22年(1947)4月より生産が許されたのがこのトヨタSB型小型トラックでした。全長3.8m、995cc、27馬力

戦後の日本において乗用車という概念がまだなかった。特に被災地広島においては、復興という使命があった。たくさんの荷物を運ぶ。たくさんの人を運ぶ。トラックやバスが重要な輸送手段だった。

クルマを売ろうにもクルマがない時代。戦後日本の自動車生産はトラックから始まった。



昭和22年(1947)生産を開始したトヨタSB型小型トラック。竣工間もない上臈町の広島女学院高等学校前で。昭和23年(1948)頃。



昭和27年(1952)頃。トヨタSB型小型トラックの後期型。ヘッドライトをフェンダーに収めたSD型が誕生した。観音小のグランドにて。



昭和22年(1947)、トヨペットの愛称で登場したトヨタSB型トラック。乗用車は生産制限があったがSB型トラックは昭和27年までに1万台以上が生産された。

ピックアップの時代



トヨペットSG型ピックアップ乗用車。後部座席は大人3名が乗れるスペースがある。昭和27年頃。



上記SG型を後方から荷台部分を見たところ。前方の門柱観音小学校の正門。ちょうど運動会の時のようだ。



トヨタSB型トラックのシャーシを利用して作ったピックアップ。ヒロセキタマチ4号。昭和24年(1949)夏、広瀬北町本社にて。

昭和27年(1952)頃。この時代はトラックとピックアップと両型式のシャーシが生産された。これはSG型シャーシにボディ架装がされたもの。気品あるデザインが美しい。



乗用車のようにトラックのように荷物が運べる。昭和20年代半ばよりピックアップが流行ったクラウンのようなセダンが登場する前、乗用車、ときどきトラックが人気だった。ピックアップという時代があった。



昭和28年(1953)発売になったトヨペットRK型トラックのピックアップ。この時代は2ドアが主流で後部座席はドアがない。



上記、RK型ピックアップのリヤ部分。1トンまで積める積載重量が魅力だった。左は観音小学校。



トヨペットSG型シャーシから作ったピックアップ。昭和28年(1953)、まだ整備中の百メートル道路にて。バックはアメリカ文化センター前のラバンセ像。



表紙のヒロセキタマチ1号のリヤから見た写真。なんと試作車はピックアップだった。

●トヨペット・ピックアップ
運転席、助手席の後方に3名分のシートがあり、5名が乗車できます。後部荷台には1トンまでの荷物が積み込みできます。乗用車のような美しいスタイルをもち、トラックとして使用するカタわら、商用連絡に、顧客の送迎用に、乗用車として使用しても一向さしつかえないので、大変重宝がられています。

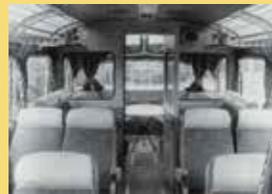
昭和24年(1948)10月、GHQによる乗用車の生産制限全面解除されて、まず最初に登場した自動車は一般の乗用車でなく後ろに荷台のあるピックアップというスタイルの乗用車でした。本誌の表紙のヒロセキタマチ1号もこのピックアップでした。日本初の本格乗用車・クラウンが誕生するのは昭和30年に入ってから。昭和20年代、国産乗用車の黎明期にはトラックシャーシを利用したピックアップの存在が大きかったと思われれます。以下、当時のカタログより引用

見た目は乗用車
だけどトラック



広島博宣伝カーの前で納車前の記念写真。この時代にここまでの特装車を作る技術を持ち得ていた先人たちを誇りに思う。

これが広島博の特装車内部。後方にはテーブルが置かれ、応接コーナーに。両サイド上部には扇風機までセットされている。



トヨペットSG型トラックのシャーシを利用した広島市役所のライトバン3台。昭和30年頃。まだ整備中の平和公園にて。



中国電気工事(中電工)の特装車。フロントには英文で社名が入っている。ベース車はトヨペットルートトラック。



事故に遭遇したのか?横転したのか?ボロボロになったトヨタFHJ型消防車。

見事に甦ったトヨタFHJ消防車。ホイールベースが2.5mになった新型シャーシを持つ。エンジンはトヨタ・トラックのF型6気筒OHV3878cc、105psを消防規格にしたエンジンを搭載。昭和30年頃。

これが広島博の宣伝カー。博覧会にふさわしい斬新なデザインが目をひく。後部はデッキになっており、ミス広島博の美しい女性たちが手を振って来場を呼びかけた。



右のABBCの特装車の架装途中の写真。シャーシとフレームだけのマイクロバス。



特装車とは、自動車メーカーが生産した完成車に対し、特定用途や目的の為に部品や装置を取り付けたりボディやシャーシに対して改造を加えられた特殊な車のことを言います。復興途中の町で広島トヨタは官公庁をはじめ特装車の分野に早くから参入していました。被爆75年は草木も生えないと言われた広島町の原爆で壊滅的な被害にあった広島の人たちの力にならなければ、と私たちは自動車の世界で生きて参りました。「もはや戦後ではない」昭和31年の経済白書はこう宣言して戦後の復興期に終止符をうちました。昭和33年開催された広島復興大博覧会は私どもにとっても一つの節目でした。

特装車いろいろ



国鉄労組の特装車。広島地方本部のマイクロバス。後ろに人が立てるデッキがある。ベース車はダイナ。



スケート場で有名なヒロシマアリーナの宣伝カー兼マイクロバス。ベース車はトヨペットルートトラック。昭和29年(1954)年頃。



比治山にある放射線影響研究所(ABCC)の前で。フロントに横文字でFUJISAWA YAKUHIN(藤沢薬品)が入っている。昭和33年頃か?

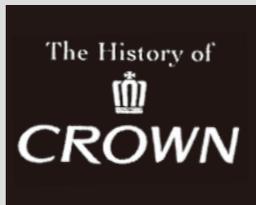
宣伝カーから
消防車まで特殊
仕様のクルマづくり

Since 1936

思い出の町から
こんにちは

広島トヨタ84年の歩み

これからも、この町で、ずっと



広島トヨタといえばクラウン
日本の高級車クラウンと共に
歩んだ広島トヨタの歴史

1936.8 広島トヨタ販売(株)創業(広島市千田町)
創業者は藤井 蔵

(昭和11年)

1942.2 12 戦時期の対応として広島トヨタ・広島日産等

1943.10 10 県内の販売業社が合併し広島県自動車配給(株)設立

1945.8 10 広島県自動車整備配給(株)と社名変更

1946.4 4 社屋を移転(広島市広瀬北町)

1948.4 4 広島トヨタ販売(株)に社名変更して再出発

1950

1955.1 1 ★国産初の乗用車クラウン発売

(乗用車専用設計)

1955.12 12 ●福山出張所開設。58年福山営業所に新築移転



創業者 藤井 蔵

1960

1961.5 5 ●大竹営業所開設(大竹市小方町)

6 ★パブリカ発売

7 ●三次出張所開設(三次市十日市)

1962.11 11 ●トヨタ中古車センター開設(広島市庚午北)

1964.4 4 ●クラウンエイト(現在のセンチュリー)発売

6 ●呉出張所開設。68年新築移転(呉市宝町)

1965.3 3 ●トヨタスポーツ800発売

1967.5 5 ●トヨタ2000GT発売

1968.7 7 ●広島東営業所開設(広島市仁保新町)

1969.2 2 ●広島トヨタフォークリフト(株)設立



1971年(昭和46年2月)4代目クラウン



1974年(昭和49年2月)5代目クラウン

1970

1970.12 12 ★カリーナ発売

●カリーナサロン開設(広島市庚午北)

1971.2 2 ●広島北営業所開設(広島市緑井)

●三原営業所開設(三原市皆実町)

11 藤井 蔵会長就任・藤井洋司社長就任

1972.12 12 府中営業所(芦品郡新市町)

1973.9 9 尾道営業所開設(尾道市高須町)

●広島営業所開設(呉市広町)

1974.3 3 10 福山東営業所開設(福山市引野町)

1974.3 3 10 庚午営業所開設(西区庚午北)

1976.1 1 12 西条営業所開設(東広島市西条町)

1977.6 6 1 ●五日市営業所開設(佐伯区皆賀)

1977.6 6 1 ●庄原営業所開設(庄原市七塚原)

9 ●竹原営業所開設(竹原市竹原町)



2代目 藤井洋司



1979年(昭和54年2月)6代目クラウン



1983年(昭和58年2月)7代目クラウン

1980

1980.6 6 ●祇園営業所開設(安佐南区祇園町)

1980.7 7 ●本社社屋新築移転(広島市中区広瀬北町2-124)

1986.8 8 創業50周年記念誌「ひろしまの道」発行

1987.7 7 ●廿日市営業所開設(佐伯郡廿日市町)

1988.8 8 ●安芸府中営業所開設(安芸郡府中府中町)

1989.9 9 8 藤井一裕 社長就任



3代目 藤井一裕



1987年(昭和62年2月)8代目クラウン



1991年(平成3年2月)9代目クラウン

1990

1990.6 6 ●エステイマ発売

1992.1 1 ●エミリーナ発売

12 ●カルデザイン発売

1994.6 6 ボランティア活動開始

1995.10 10 ●キャバリエ発売

1996.1 1 ●メガクルーザー発売

8 創業60周年記念誌「フォーシーズンガイド1996」発行

11 ●DUO広島東開設

12 ●プリウス発売

●西風新都開設(広島市安佐南区大塚西)

2000

2001.1 1 ●エステイマハイブリッド・プレビス発売

2004.2 2 ISO4001認証取得

7 ●ポルテ発売

9 ●アイシス発売

4 ●庚午店を新築移転

8 ●LEXUS広島東開設(広島市南区東雲本町)

9 ●庄原店を三次店に統合

10 ●トヨタヒロシマ・タンカン開設(ベトナム・ホーチミン)

11 ●五日市店を新築移転

2006.8 8 創業70周年記念誌「ぶち好きじゃえ」発行

2009.10 10 ●SAI発売

2010

2010.4 4 ●府中店を福山北店に統合

●竹原店を西条店に統合

2011.5 5 ●FJクルーザー発売

●プリウスα発売

12 ●アクア発売

2012.1 1 ●プリウスハイブリッド第一回全国大会準優勝

2 ●TOYOTA86発売

4 ●VW東広島新改築(東広島市西条町)

●AREA86開設(安佐南区大塚西)

11 ●トヨタヒロシマ・ピンク開設(ベトナム・ハノイ近郊)

2014.9 9 ●VW三次認定中古車センター開設

10 ●エスクア発売

●VW東雲インター開設

11 ●燃料電池自動車 MIRAI発表

2015.4 4 第31回サービステクニカル(全国大会準優勝)

2016.4 4 ●矢野海田店開設(広島市安芸区矢野東)

2020

2020.5 5 オールトヨタ全車種販売スタート

8 広島市が被爆75周年を迎える記念図録「ヒロセキタマチ物語」発行



2012年(平成24年2月)14代目クラウン



2018年(平成30年6月)15代目クラウン



2003年(平成15年2月)12代目クラウン



2008年(平成20年2月)13代目クラウン



1995年(平成7年2月)10代目クラウン



1999年(平成11年2月)11代目クラウン



1987年(昭和62年2月)8代目クラウン



1991年(平成3年2月)9代目クラウン



1979年(昭和54年2月)6代目クラウン



1983年(昭和58年2月)7代目クラウン



1971年(昭和46年2月)4代目クラウン



1974年(昭和49年2月)5代目クラウン



1962年(昭和37年10月)2代目クラウン



1967年(昭和42年9月)3代目クラウン



1955年(昭和30年1月)初代クラウン

●被爆75年に寄せて

先人たちが残してくれた未来への^{わだち}轍
だから、この町でずっと。

広島トヨタ自動車(株) 代表取締役社長 藤井 一裕

私たち広島トヨタは戦前より80年以上の歴史をもつ会社です。昭和20年(1945)の原爆で社屋を焼失し、翌昭和21年現在の広瀬北町に社屋を移転しました。今年是被爆75年の節目の年。往時を忍ぶ貴重なアルバムと邂逅できたことに感無量です。昭和20年代前半(1945~1950)はGHQによる自動車の生産を制限されていた時代。「75年は草木も生えない」と言われたこの広島の地で先人たちはどう立ち上がってきたのか? この1冊のアルバムは全てを物語っていました。奇しくも今年にはコロナ禍との戦いの年でもありました。辛く厳しい現実の前で、これからどう生きていくのか? 世界中で新しい生き方が問われています。

今、私ども広島トヨタが目指しているのは“地域に寄り添う会社”です。我々の原点はこの広島です。喜びも悲しみも幾歳月=広島の人たちの人生に伴走できる会社でありたいと願っています。先人たちが築いた轍を受け継ぎ、この町でずっと。



ヒロセキタマチ1号が撮影されたと思われる場所とほぼ同じ位置に立つ当社藤井一裕社長(右)と中川太芽雄さん。



■中川輝義さんの横顔
この人がアルバム作成者の故・中川輝義さん。昭和21年復員後、広瀬北町の当社サービス工場の一角で車体の架装や板金加工を始められた。アルバムの中で唯一クルマが写っていない写真がこの写真。ABCCへ特装車を納品した帰りか?比治山の展望台からの風景。輝義さんのバックに復興途中の広島の町が広がる。昭和30年頃。

比治山のABC(放影研)に特装車を納車した後、新しくできた展望台に立ち寄った。廃墟だった広島町のビルや家々が建ち並んでいた。人々の活気が戻ってきた。あの日から十年経っていた。

■編集室から



アルバムを見ながら当時を振り返るため
中川太芽雄さん。隣りは菅川編集委員。

●中川さんと言えば、私以上の世代の社員からは『富士車体の中川さん』として、車のちよつとした小さな架装からトラックの難しい架装まで、快く引き受けてくださる優しい職人さんとして知られた方です。

その中川さんが持つてきてくださった一枚の写真『ヒロセキタマチ1号』を掘り下げていく中で、大切に保管しておられたアルバムを拝見しました。

アルバムの中の写真一枚一枚の深掘りが始まり、お話を伺いながら、中川さんのお父様の代からの深いご縁と、戦後の混沌とした時代の中でのあの高い技術力にただただ感動しっぱなしでした。

一発の原爆で社屋をすべて失ったけれども自動車普及の夢をあきらめず、もう一度、広島トヨタを再建してくれた先々代のおかげで我々が今ここにいられること、そしてその夢のわだちには不可欠であった、中川さんのお父様のお力添えに感謝の気持ちでいっぱいの中、編集を終えました。今日までわだちをつないでもらったことに感謝しながら、社員、この町のお客様と一緒にこの先の未来へわだちをつなげていきたい。この企画がその原点を思い出す機会になりますように…(菅川純子)

●「75年は草木も生えないと言われた広島の町でしたが翌年には川土手にペンペン草木が一杯生えとりました」

太芽雄さんは被爆当時は袋町国民学校(現・広島市立袋町小)の6年生。県北の三次に疎開されていた。爆心地に近いすぐ近く広島市猿楽町に父輝義さんの営む車体工場があったが、工場兼自宅は原爆で焼失。太芽雄さんは原爆投下の3日後に入市被爆された。そして今回アルバムを見て驚愕したのは手作りの自動車はヒロセキタマチ1号だけでなく、2号、3号、4号まであったということ。他にもたくさんトラックやピックアップ。見たこともないクルマが次々と登場していた。「たぶん、広島で乗る車というものを作ったのは、広島トヨタさんが初めてですよ」と中川さんは振り返る。復興途中の広島の町で、四輪乗用車づくりに夢をかけた男たちがいたことを誇らしく思った。(小原潔)



原爆投下前、中川太芽雄さんの父輝義さんが車体加工工場兼自宅を構えていた爆心地近くの広島市猿楽町。1940年(昭和15)に撮影。



中川太芽雄さん(左)と父輝義さん。原爆投下前の猿楽町にあった車体加工工場兼自宅前で撮影されたと思われる。

ヒロセキタマチ物語

広島トヨタ・復興の記録

発行:2020(令和2)年11月
発行所:広島トヨタ自動車株式会社
広島市中区広瀬北町2番24号
〒73010803
電話 082-291-1000
発行人 藤井一裕
編集 広島トヨタ・被爆75年図録編集室
編集協力 ギミック都市生活研究所
印刷製本 株式会社中本本店
編集人 小原潔
図録編集 沖宣行
編集委員 菅川純子
取材協力 中川太芽雄(元富士車体) 宮本一輝
(福山自動車時計博物館)
辻森尚仁(朝日新聞社)
中川太芽雄
広島市公文書館

●参考文献

轍(広島トヨタ初代社長 藤井巖著)
広島トヨタ自動車50年史
広島トヨタ自動車80年史
トヨタ自動車30年史
トヨペットトラック取扱書
日本の小型商用車
1904~1966(三樹書房)
広島新史:市民生活編(広島市)
広島被爆40年史:都市の復興(広島市)
被爆50年図説戦後広島市史(広島市)
都市広島1945~1995
(広島市都市デザイン室)
ひろしま50年展パン(広島市公文書館)
グラフひろしまNo.56
「ひろしま昭和(へん)時代」(広島市)
タノシビトNo.12
「記録をたどる旅」(広島市)



福山自動車時計博物館の宮本一輝副館長。今回の取材で貴重な話を聞かせて頂いた。初代クラウン展示車の前で。

昭和23年(1948)、広島トヨタ販売(株)から広島トヨタ自動車(株)に社名変更



ヒロセキタマチ1号(リヤ)



広島トヨタ自動車株式会社
広島県広島市広瀬北町

冊子をご希望の方は、
下記お問い合わせ先まで、
お電話ください。

※数に限りがございます。※無くなり次第終了となります。



お問い合わせ先

広島トヨタ自動車(株) 総務部 社史編纂室

広島市中区広瀬北町2-24 ☎082-291-1024 (ダイヤルイン)